



㊦ふくらんでとげが立ったハリセンボン ㊧黒目が大きくユニークな顔をしたハリセンボン。普段、とげは倒れていて目立たない

ハリセンボン

学名 *Diodon holocanthus*

分類 フグ目ハリセンボン科
大きさ 30センチ
分布 全世界の温帯、熱帯域に分布

し、日本では青森県以南で見られる。サンゴ礁や砂地、磯などの水深40センチより浅い海に生息している。

特徴 体は灰褐色で、多くの斑点模様がある。胸びれや尻びれ、青びれをパタパタと振りながらゆっくりと泳ぐ。体にはたくさんの棘があり、驚いたり危険を感じたりすると立てて身を守る。肉食性で頑丈な歯があり、カニやエビ、ウニ、貝など硬い殻や甲羅を持つ生物を、簡単に噛み砕いて食べることができる。

実際の「針」は400本

ハリセンボンはフグの仲間。体にはたくさんの「棘」と呼ばれるとげがあることからつと書きます。また、英名は「ヤマアラシのような魚」という意味の「porcupine fish」です。どちらもとげしかありません。とげは実際に体に400本程度の「針」ですが、名前は「針千本」です。つまり、名前が「針千本」です。驚いたり危険を感じたりすると、とげを立てます。海水や空気を取り込み、体をふくらませると、倒れていたとげが立ちます。ふくらんだ

おもしろ生き物図鑑 かごしま水族館から

うろこが変化したもので、長さ1〜4センチとさまざまです。普段は、頭側から尾びれに向けて倒れていて、目立ちません。

間がかかると、少しいき間がかかる場合があります。

水族館の前に広がるイルカ水路には、たくさんの幼魚がやっています。過去に一度2センチほどの小さなハリセンボンを見たことがあります。小さな体にもとげがあり、成魚と同じように体をふくらませることはできました。

幼魚の時からとげの数はほとんど変わりませんが、成長するにつれて、とげが太く強くなっています。黒目が大きく口元が笑っているような愛らしい印象を覆す、ハリセンボンの本領発揮です。（展示課海獣展示係主任・大瀬智尋）

任・大瀬智尋